

## 沖縄の交通

# 美ら島に鐵路がのびれば

「軽便汽車乗ていまーかいが(軽便汽車に乗ってどこへ行く)」。沖縄の鉄道唱歌の歌い出しである。

沖縄には戦前、県営の鉄道が走っていた。軽便とはいえ総延長は48<sup>km</sup>に及んだ。陸上貨客輸送のかなめだった。

それが消えたのは、営業不振で廃止されたわけではない。すべて沖縄戦で破壊されたのだ。

戦後、ほかの都道府県では戦災復興という形で国が鉄道を再整備した。沖縄には空港と那覇市首里を結ぶモノレールの「ゆいレール」はできたが、かつての鐵路の復活は放置された。

沖縄の人たちは郷土を美ら島と呼んで愛する。そこに今、あの鉄道を再びと願う声が熱を帯びている。内閣府は2010年度予算で、鉄軌道の導入を含めた交通体系の構築に向けて調査費をつけた。地元国會議員らによる議員連盟もできた。

沖縄は車であふれている。

那覇市など本島中南部の渋滞のひどさは全国でも有数だ。混雑時の時速は平均15<sup>km</sup>で、東京、大阪、名古屋の三大都市圏より遅いという。

渋滞による経済的な損失は道路1<sup>km</sup>当たり年間1億1500万円になり、全国7位の多さだという試算もある。

世界から集まる観光客も、朝夕のあの渋滞には戸惑うだろう。車中心の交通は限界に達している。

鉄道には巨額の投資が要るので、すぐに実現できるとは思えない。だが、過度な自動車依存から抜け出し、美しい島を守るために、新たな交通体系の導入を真剣に議論する時期にきているのではないか――。

そう鐘を鳴らしたのが、沖縄経済同友会だ。従来型の鉄道ではない、低騒音で高速運転も可能な路面電車を09年に提案した。欧州で発達したLRTと呼ばれる型式だ。建設費用は1<sup>km</sup>当たり20億〜30億円と試算し、地下鉄やモ

ノレールより優位と説明している。有識者でつくる市民団体「トラムで未来をつくる会」は昨年、ほぼ戦前の鉄道の路線に近いルートを含む6路線を沖縄本島中南部に考え、本格的なLRTを走らせようと呼びかけた。

導入に追い風も吹いている。地域公共交通活性化再生法が、07年にできた。国土交通省は全国の自治体にLRTの導入を勧め、予算措置にも積極的な姿勢をみせる。

日本に超高齢化社会が迫る。

子や孫に頼らないと外出できないお年寄りはさらに増える。LRTは低床でバリアフリーにもでき、交通弱者の利用にやさしい。電気でも動くので、環境にもやさしい。

沖縄は国内随一のクルマ依存県だからこそ、低炭素社会の交通の模範になれるチャンスがある。

美ら島に鐵路がのびれば、できるかもしれない。

2011.01.06

